

研修名

重大事故事例から自校の安全対策を検討する研修  
(m-SHELL モデルの活用)

<効果的な実施時期>  
長期休業中

## 1 研修目的

過去に発生した重大事故の発生要因の分析を参考に、自校の安全管理・安全教育・組織体制等の安全対策を検討するとともに、教職員自身の日頃の安全指導に生かす。

## 2 研修の概要

過去に発生した類似の重大事故を防止するため、「m-SHELL モデル」を基に自校の安全対策等を検討し、学校組織としての対策強化と教職員自身が日頃より留意すべき安全管理や安全指導に生かす。

※「m-SHELL モデル」とは、事故が発生した場合にそれに関わる人や周囲の環境を分析し、事故発生の背後にある要因を分析する手法。

## 3 進め方のポイント

- 導入場面では、過去に発生した重大事故事例を提示し、他校で発生した事例は自校でも起こり得るという意識を持たせ、参加する教職員が「自分ごと」として再発防止や事故予防に努める意識を高めさせる。
- 「m-SHELL モデル」を基に、自校の安全対策等について検討し、研修を進める。  
※使用する事例は、文部科学省学校安全ポータルサイトからダウンロードし、各学校の実態に応じて、グループごとに設定することが可能である。
- 研修で検討された対策は、危機管理マニュアルの見直しや児童生徒等への安全指導に生かせるよう、校内で共通理解を図っていくことが重要である。

## 4 準備物

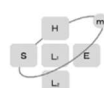
- 進行スライド（※各学校の実情に応じて修正可能）
- パソコン（タブレット）、プロジェクター、スクリーン（モニター）
- 筆記用具、模造紙、付箋（Google Jamboard 等の活用も可能）
- 「m-SHELL モデル」のワークシート
- （各校の）危機管理マニュアル



## 5 研修のイメージ

<展開：m-SHELL モデル表を基にした話合いの様子>

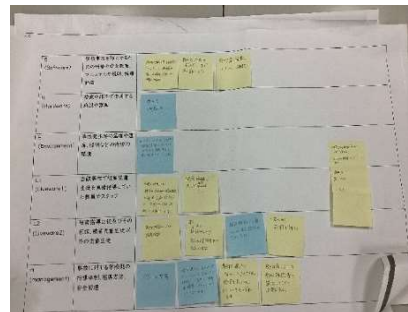
<まとめたワークシート>



m-SHELLモデルとは、東京電力ヒューマンファクターグループが提唱した、ある事故が発生した場合にそれに関わる人や周囲の環境を分析し、事故発生の背後にある要因を分析する手法。

m-SHELLモデル	m-SHELLモデルの各要素の意味	学校事故に読み替えた場合の各要素の意味
S (Software)	作業手順や作業指示書、作業指示の出し方、教育訓練などのソフトに関する要素。	学校事故を防止するための研修や安全教育、マニュアルや規則、指導計画など。
H (Hardware)	作業上の装置やシステムとハードに関する要素。	授業や部活動で使用する施設や器具など。
E (Environment)	照明、騒音、温度、湿度といった作業環境に関する要素。	事故発生時の温度や湿度、照明などの物理的環境、その他の事故に影響を与えたと考えられる環境など。
L <sub>1</sub> (Actors)	当事者本人に関する要素。	当該事故で被害児童生徒を直接指導していた教員やスタッフなど。
L <sub>2</sub> (Actors)	当事者周囲の同僚や関係者、相手に関する要素。	被害児童生徒及びその家族、被害児童生徒以外の児童生徒。
m (Management)	組織や体制、職場の雰囲気、安全管理などの要素。	事故に対する学校の指導体制、指導方法、安全管理。

文部科学省「学校事故対応に関する指針」に基づく詳細調査報告書の機密整理(182.3)より



## 6 研修に参加した先生の声

- 事故防止に関する具体的な観点や留意点について、重大事故事例から学んだことを危機管理マニュアルに反映させ、日々の安全指導に生かしたい。
- グループで出された意見や考えを教職員間で改めて確認するとともに、組織として対応ができるよう、校内での安全対策を構築していきたい。



## 7 研修の進め方（例）【40分】

時間	内 容	進 め 方	資 料 等
導入 (5分)	1 過去に発生した重大事故について理解する。 【一斉】	○過去に発生した重大事故の発生状況について説明し、他校で発生した事例を「自分ごと」として捉えさせ、本研修への意識を高める。	進行スライド(1-3) 資料1 参考1
展開① (15分)	2 事故の要因分析「m-SHELLモデル」について理解する。【一斉】  3 重大事故事例を基に、事故要因とその対策について考える。 【個人】【グループ】	○「m-SHELLモデル表」を使用し、事故分析の手法について説明する。  ○各校の実情に合わせて班編成を行い、グループごとに話し合わせる。  ○事故要因に対して必要な対策を付箋に記入させる。  ○付箋を基に、お互いに意見を発表し合い、「m-SHELLモデル表」(模造紙)にまとめさせる。	進行スライド(4-11) m-SHELLモデル表 筆記用具 模造紙 付箋
展開② (10分)	4 詳細調査報告書の横断整理に掲載されている内容と比較し、意見交換を行う。【グループ】	○「事故の要因」と「提言された対策」を提示(配布)し、見落とししていた点や記入されていない点について、グループ内で確認させる。	進行スライド(12) 資料2
まとめ (10分)	5 自校における安全対策について、全体で共有を図る。【一斉】	○グループで出された意見や考えを発表させ、全体で共有させる。  ○学校として対策を講じる点や、教職員が日頃の安全指導で留意する点等について、全体で確認させる。	進行スライド(13) 危機管理マニュアル

### <活用資料>

- (資料1)  
「学校管理下における重大事故事例」(文部科学省)



- (資料2)  
「学校事故対応に関する指針」に基づく詳細調査報告書の横断整理  
(文部科学省)



- m-SHELLモデル表  
URL: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hotai/zikobousisishell.html>

### <参考資料(サイト)>

- (参考1)「学校等事故事例検索データベース」  
(独立行政法人日本スポーツ振興センター)

